

2016年11月13日(日)／子ども祝福式

説教:「光の子として歩みなさい」

聖書:エフェソの信徒への手紙5章8～11節

保育園にある一冊の本を紹介しましょう。この本は『月、人、石』というタイトルの付いた本です。この本は、乾千恵(いぬいちえ)さんと言う方が大きな筆で字を書いています。よく見ると左手で書いています。書道というのは基本右で書くものと言われます。左利きでも右で書きなさいと書道の先生でしたら大抵は言われるそうですが……。でも、乾さんは左手で書きます。それは、彼女に脳性麻痺があつて左手でしか書けないからです。彼女は書道がやりたい、やってみたいから動く左手を使って書き始めました。一生懸命練習して、今や書道家として本を出し、全国各地で書展を開き、多くのファンがいます。彼女の魅力はどこにあるのでしょうか？

この本の中に「影」という字があつて短い言葉で「かげをつくるのはひかり」とあります。光が当たらなければ、影はつくられない……当たり前のことですが。光と影……この字を書いている乾さんは、毎日車椅子での生活で、不自由さが見えています。乾さんは、自分の弱さを隠そうとしません。むしろ、隠すことができない。その強さと弱さがはっきりしていることが、より魅力を感じるのではないのかなと思います。

「光の子として」とは、何も自分自身が光る、自分の中から光を放つ者になることではなく、神様の光を受けて、歩む者になりなさいということ。神様の光を受けるとは、光を受けますと、受けたその後ろに影が出来ます。神様の光を受けることは、自分の影に気づかされて歩むということです。自分の影とは、自分自身の罪ということです。自分の弱さ、悪い部分、罪に気づかされて歩むことです。これはとても大事なことです。

最後に聖書は、その「光からあらゆる善意と正義と真実とが生じるのです」と教えています。私たちの社会には、その「善意と正義と真実」を脅かす状況が常にあります。沖縄の置かれた社会はどうでしょうか。「光の子として歩みなさい」とは、しっかりとこの世の社会情勢の「あらゆる善意と正義と真実」に向き合うということでもあるのです。(神谷)